

一、廣告

五號活字十九字
發行五日 金七
三日以上 金七
五日以下 金七
特別開 金貳拾
印刷人 萬生修亮
寫辦人 徐崇 謹

新嘉坡大馬路門牌二十七號

山は京釜鐵道敷設後より俄然とあて障
今後益々増大を加へんとするは吾人の
慶賀する處也是れが發展に伴ふ影響は
は多々屈指に推みざるべしと雖、要
に左の數項を以て最も急切なる者と信

後の小學校再築の要は多く言ふ迄もな
定は本年の居留民衆に於て容易に決議せ
べく落其次に起るべき問題は實に釜山
小學校の設立なりとす今や釜山の人口は
二二萬に達しとして小學校生徒は實
人を數へざるに起るべき事なり

第十一 農業 (承前)

七畝歩なるを地方に依り區々一

期に此較すれば非常の懸貴なれども
 臨に對すれば尙實景登記料にも足ら

情を異にし布帛を以てする所ある所ありてその懸重一葉な

等毎結葉銀三十兩

等雨	十四雨	七等雨
等雨	十雨	九等雨
等雨	五雨	十一等雨

しが終た勅記の儘なりしが今調査
欠くを以て確言する處は儘はされ

100

症 價
金拾錢

留地より、食會を開き祝意を表し、候
起業、轉は近頃大に進みたる企を始め

小品文

31

秋い道を通つて行くに、
の大きな洞穴が、
其中へは、
良用

捕陽の賭博

眼を重くしてはならないと云ふので世
は只眼を開きたまへ、どんな處を歩いて

い、而しながら銅色をした賊共が

で歩んだのであつた。
 行は遠に或る峠まで着いた、それか

此山越其は元來密輸入を以て前時子との同だせぬ

元^{もと}に檢^{しら}の林^{はやし}があつて其^{その}中^{なか}に平^{ひら}たい空^{そら}地^ち
真^ま手^て元^{もと}の倒^{たふ}木^きの邊^へで馬^{うま}が休^{やす}ませてあ

其眞黒い前足の中に白い斑点があ
はつらん
発見した時の世良田の驚きは非常で
きふふふ
けふふふ
ふふふふ

此の山寨には他にも一人の佛蘭西人

人は奇妙な音聲を出して何かの合図
らしかつたが、一行を此處に止まつ

中から答ゆる者があつて間もなく
 の同じ様な仲間が現はれて双方

「はい、は頼りに其山刀を打振り何か

既往の名譽に相當した美事な死方と
思つてゐる。日本の一人が命令を蒙

會社第一金行
電話十一番

本店
東京
頭取
澤榮

長崎熊本博多佐賀中津
爲替取組先

諸項金為替金其他銀行一役

最新にして大流行品

た
ち
類

...

卷一七

—

•

失
も
隠しトトヘ、聲かき人の生命ならは好た男
と一つ夥の拙話の限りを盡してこゝ女子に
生れし早愛あらりとは色慾の大學の初めに
ありとせしいられてはイトも氣も浮れ大れ
とはなしに心を付くれれば疑は異な者妙な者
僅か一重の障子と内より、此家の番頭、某
(或は久松か)といふありけり、年は盛りの
廿四五、爪齧り色青く、ノラけるに足る
甘四五、爪齧り色青く、ノラけるに足る
(是れは原川に對する其半朝の月が如く、
僅しは半朝の月が如く、女にして是れはし
西洋料理館堂の主人はだに其業を老つ
て居るやふだ、此處右手を負擔された
と云へ、纏帯をして居た、一寸みる
と、あゝ愛嬌はない、幾り不親切でもない
新聞記者の訪問などに接しては、自家
財政上其年から何れ懸さすといふ心を寬
けて話した處も、流石は浮世の風流に
多年泳がれた女あるや、半ば甲申度い
應領書野村は矢張り通譯の主人本と
して、か父のいふ青娘、第一式の事

(通行の者)
●今晩の演劇 松井座「江戸鋸山」
も仇討まで」▲幸座「源平源俊又源次郎一代記

廣 告

特別大安賣
からす板各種
此の外諸雜貨

本町三十三
石川勝治商

大勉強仕リ北濱ノ
禍ニ罹リ再度ノ不
ニ會ハレタル方ニ
左ノ割引價格ヲ以
販賣可仕候間御用
仰付度候

一卷〔六坪〕拾貳圓〔仕分附〕

北洋星

災運ハ云テ被
 精白米廉價販賣
 西原商店
 電話二五六四

